

氏名 <small>(法人にあっては名称)</small>	西川ゴム工業 株式会社
住所	広島市西区三篠町二丁目2番8号
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	令和元年度～令和3年度 (平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	工業用ゴム製造業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：1933)
事業概要	昭和24年4月設立、自動車用ウェザーストリップを中心に工業用ゴム製品を設計～製造～販売まで一貫して実施。広島市内には、本社並びに安佐と白木の2工場を有する。主力製品である自動車用ウェザーストリップでは、国内トップシェアの実績。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス実排出量(*5)	24,795 t-CO ₂	24,200 t-CO ₂	20,802 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.4 %	16.1 %	%	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		24,200 t-CO ₂	20,802 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.4 %	16.1 %	%	%	%
実績に対する自己評価	中国電力の実排出係数が下がったことと、省エネ活動の進展によりCO2排出量は減少した。					

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

(安佐工場) ・エネルギー置換 (ポリマー加温庫第1工場LPG (蒸気) →電気) 90t/年削減 ・水切りエア改良による省エネ (リングブロー (ノズル加工)) 120t/年 (全ライン合計)	
(白木工場) ・蛍光灯からLED照明への置換 14.58 t/年 ・ラインパトロールによるによるエア洩れ箇所修正活動 10.02 t/年 ・吸引コンベア ブロー台数削減による省エネ 12.11 t/年 ・加硫炉及びバーナー断熱工事 8.44 t/年	

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

・特にありません

4 その他の取組の実施状況

・主要設備毎に電力使用量の見える化を実施し、省エネ活動アイテムを抽出・対策・水平展開活動実施 ・全社の省エネワーキンググループによるエネルギー原単位改善活動 ・非稼働時の待機電力削減活動 ・月次CO2排出量、エネルギー原単位の公表を行い社員の省エネ意識の啓発を行う ・生産工程での生産性向上、歩留向上及び生産設備の稼働率向上
--

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
 *8 環境価値とは、ワセツルジツ制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	西川ゴム工業株式会社 安佐工場
事業所の所在地	広島市安佐北区安佐町大字久地3723-1
事業所の業種	工業用ゴム製造業
事業の概要	昭和43年操業開始で、当社最大の生産能力。自動車用ドアシール材等を生産。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	18,088 t-CO ₂	17,654 t-CO ₂	15,073 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.4 %	16.7 %	%	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		17,654 t-CO ₂	15,073 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.4 %	16.7 %	%	%	%
実績に対する 自己評価	半導体の影響により生産稼働が安定せず。待機電力削減を目的とした活動を行いCO2排出量が減少した					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> エネルギー置換 (ポリマー加温庫第1工場LPG (蒸気) →電気) 90t/年 水切りエア改良 工場コンプレッサーエア→リングブロー (ノズル加工) 120t/年 (全ライン合計)

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません
--

2 その他の取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ライン点検によるエア洩れ箇所修正活動 非稼働時の待機電力削減活動

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	西川ゴム工業株式会社 白木工場
事業所の所在地	広島市安佐北区白木町大字三田9531
事業所の業種	工業用ゴム製造業
事業の概要	昭和38年操業開始で、教育センターを併設。自動車用ドアシール材等を生産。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	5,758 t-CO ₂	5,620 t-CO ₂	4,918 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.4 %	14.6 %	%	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		5,620 t-CO ₂	4,918 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		2.4 %	14.6 %	%	%	%
実績に対する 自己評価	継続的に実施しているラインパトロールによるエア洩れ箇所の修正によりコンプレッサの電力を削減することができた。 また、加硫炉及びバーナーの断熱を行うことでCO2削減することができた。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・蛍光灯をLED照明への置換	14.58 t/年削減
・ラインパトロールによるエア洩れ箇所修正活動	10.02 t/年削減
・吸引コンベア ブロア台数削減による省エネ	12.11 t/年削減
・加硫炉及びバーナー断熱工事	8.44 t/年削減

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・月次CO2排出量・エネルギー原単位の公表を行い社員の省エネ意識の啓発を行う ・廃棄物の適正な分別と処分 ・環境負荷物質の確実な管理
--